

乳がん最新治療法学ぶ

あけぼの岐阜、オンライン講演会



リモートで早期の乳がん検診を呼び掛ける岐阜大付属病院の二村さん＝岐阜市太郎丸で

県内の乳がん患者らでつくる「あけぼの岐阜」は二十五日、新型コロナウイルスを学ぶ「ピンクリボン講演

会」をオンラインで開いた。講演会は、乳がん検診の大切さを訴える十月のピンクリボン月間前の九月末、毎年開いている。全国の約八十人が参加した。岐阜大付属病院の二村学乳腺外科部長は「検診控えでがんの発見が遅れると死亡率が上がる。症状が軽いうちに治療を始めて」と訴えた。二村さんが県内二カ所の検診施設を調査したところ、コロナが流行し始めた昨年は、マンモグラフィの読影数が前年比で約二割減ったという。

コロナワクチンには「がん患者にも有効なので時期を見て接種してほしい」と話した。ただしリンパ節が腫れる副反応が出ると、乳がんの転移と誤診されてしまうため、検診や手術前に注意が必要だと指摘。「担当医にいつワクチンを打ったのか伝えてほしい」と呼び掛けた。

愛知県がんセンター中央病院の岩田広治副院長・乳腺外科部長は、最新の治療法を紹介した。「コロナ禍でも治療法は休みなく進化している。確かな情報を得てほしい」と話した。

あけぼの岐阜のスタッフは、お乳にまつわる伝説がある岐阜市太郎丸の吉祥寺で参加。乳がんの再発を経験している各務原市の女性（六〇）は「自己検診をしてい

たため、再発のときに早期発見できた。検診を皆さんに受けてほしい」と話した。

（長屋文太）